IWATE MEDICAL UNIVERSITY NEWS

岩手医科大学報

No. 482



岩手看護短期大学周辺の紅葉と秋田新幹線「こまち」(2016.11.7 撮影)



看護学部の紹介

岩手看護短期大学看護学科の戴灯式が

行われました

すこやかスポット医学講座No.72

「悪玉コレステロールが高いと必ず薬を飲まなければ ならないの?|



看護学部長予定者ご挨拶

近年、多くの専門職がそれぞれの専門性を活かし連携しながら病気 の治療や療養のサポートを進めていくチーム医療が当たり前となって いますが、本学創設者の三田俊次郎先生は、この岩手の地で120年も 前に、医師だけではなく、助産師や看護師など医療人の育成を始めて います。それは、三田先生の医療本来の在り方についての造詣の深さ を現しているものと認識されます。そのような理念に裏付けられ、こ の度開設する看護学部は、本学創立の原点への回帰でもあります。

本学はこれまで、医療系総合大学として医学部・歯学部・薬学部を 設置し、教育・研究の連携を行ってきました。ここに看護学部が加わ れば、相互補完する形となり、総合的でバランスのとれた実践的な医 療教育・研究が実現されます。また、矢巾キャンパスでは、看護学部 生を加えた4学部の学生が机を並べて学ぶこととなり、各学部学生同 十の交流が日常的に行われることから、将来のチーム医療を担う医療 従事者が学生時代から良好な人間関係を形成することに役立つものと 期待されます。

このような意味で本学に看護学部を設置することは、単に新たな学 部を新設することに留まらず、それぞれの学部の相乗効果を生み出す ことになり、本学の更なる発展に寄与できるものと確信しております。



看護学部長(予定) 嶋森 好子 看護学部設置準備室長 医歯薬総合研究所 看護 · 政策研究部門 教授

看護学部の教育課程は、医学部・歯学部・薬学部・教養教育センターの教員、附属病院の職員の他、学外 の医療関係者や教育者等のご協力をいただいて構築させていただきました。最新・最先端の高度医療、地域 包括医療、チーム医療を担う優れた看護者を養成し、岩手県のみならず東北地域全体の総合医療の推進を図 るとともに、現役看護者の資質向上にも寄与していきたいと考えておりますので、教職員の皆様のお力添え をいただけますよう、お願い申し上げます。

■看護学部設置の経緯

本学の創設者である三田俊次郎先生は、医療の充実には 医師の充足のみでは不十分であると考え、明治30年、私 立岩手病院に併設した本学の前身である医学講習所のほか、 産婆看護婦養成所を設置し、産婆・看護婦の養成を開始し ました。その後、この産婆看護婦養成所は同じく三田俊次 郎先生が設立した財団法人岩手済生医会(現一般財団法人 岩手済生医会)に引き継がれています。一方で、三田俊次郎・ てる夫妻が設立した財団法人岩手女子奨学会(現学校法人 岩手女子奨学会)は、平成2年に岩手女子看護短期大学(現 岩手看護短期大学)を設置し、建学の精神「人間愛と奉仕 の心」のもと、地域に根ざした短期大学として数多くの看 護者を輩出してきました。



私立岩手病院の前で写真に納まる三田俊次郎先生(中央) と医師、看護婦ら

急速な少子高齢化が進展する環境下において、我が国では医療や介護の需要がさらに増加することが見込まれており、高齢者の尊厳の保持と自立生活の支援を目的に、可能な限り住み慣れた地域で包括的な医療支援およびサービスが受けられる体制、すなわち「地域包括ケアシステム」の構築が推進されています。その一方、近年の医療の進歩により、医療現場において医療を提供する人材をめぐる環境は大きく変化しており、医療人には、人の生命に携わる者の責務として、安全で安心できる医療を推進するため、常に最新・最先端の知識と高度な技術、倫理性が求められています。このような中、看護を学ぼうとする志を持った学生の側でも、大学進学志向・専門志向が高まり、全国的にも4年制看護学部への進学者が増えています。

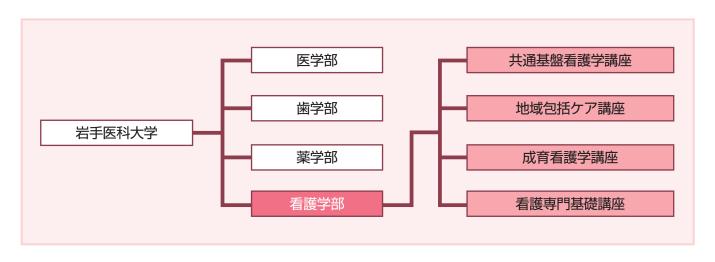
以上の背景から、本法人と学校法人岩手女子奨学会は、岩手県における看護者の育成という大局的な見地から議論を重ね、平成28年4月に岩手看護短期大学の経営を本法人に移管し、当該短期大学を母体として本学に4年制看護学部を設置することとなりました。創立120周年を迎える平成29年4月、創立の原点への回帰とともに、新たな歴史の1ページが刻まれます。

☑ 看護学部の特色

◆看護学部の組織

看護学部では、教育課程上の分類や保健師助産師看護師学校養成所指定規則で定める教育内容の区分を踏まえつつ、地域に貢献する看護実践能力をもった人材を育成するための教育研究体制として、以下の教員組織を構成、設置します。

地域包括ケアシステムや人々の健康ニーズの変化等、社会動向への機敏な対応と体系的な教育研究を推進するため、学部講座内、講座間はもとより、既存の学部との横断的な教育研究上の連携を常に図り、機動的かつ柔軟な運営を推進することとしております。



◆医療系4学部連携教育



看護学部では、医療系総合大学としての特色を最大限に活かし、 多職種連携教育(Interprofessional Education:IPE)を取り入れな がら、段階的に看護学の知識および技術を習得する教育課程を編成 しています。

1年次の「多職種連携教育のためのアカデミックリテラシー」、3年次の「チーム医療リテラシー」および4年次の「4学部合同セミナー」などのIPE関連科目は、臨床の場における問題発見とその解決方法、多職種間のコミュニケーション能力を養うことを目的に、医・歯・薬学部との共通の授業科目として開講します。この他、1年次の選択科目、クラブ活動等でも4学部の学生が日常的に交流することになりますので、将来のチーム医療を担う医療従事者が学生時代から良好な人間関係を形成することができます。

◆充実の実習環境

看護専門職としての技術や態度、倫理観を養 う上で最も重要な授業科目ともいえる臨地実習 は、本学附属病院を中心に近隣の医療施設や訪 問看護ステーション、地域包括支援センター、 介護老人保健施設などで行います。

多くの臨地実習を行う本学附属病院では、豊富な臨床経験と実習指導実績を持つ看護部職員をはじめとする医療スタッフとの連携の下、高度化・複雑化する看護の実践に必要な最先端の教育を提供します。



矢巾キャンパスに移転する新附属病院 (イメージ)

なお、1期生の臨地実習が本格的に開始される平成31年度(3年次)には、矢巾キャンパスに新附属 病院が移転、開院予定となっています。

◆改修工事が進むマルチメディア教育研究棟

看護学部の設置にあたり、実習室、講義室および研究室等を矢巾キャンパスA敷地北側に位置するマルチメディア教育研究棟の一部を改修して整備します。基礎看護学・成人看護学・老年看護学・小児看護学・母性看護学・精神看護学・在宅看護学など各専門分野の演習科目が行われる実習室は、同棟2階~3階に、講義室や研究室は4階に整備することとしており、現在改修工事が着々と進行しています。



2階:基礎看護実習室、成人·老年看護実習室



4階:講義室

基本データ

◆学部概要

名 称	看護学部看護学科(修業年限4年)		
開設年月	平成 29 年4月		
入学定員	90名	※保健師養成 20 名※助産師養成 10 名(それぞれ 3 年次からの選択)	
編入学定員	5名(3年次)		
取得学位	学士(看護学)		
設置場所	矢巾キャンパス		
取得可能資格	· 看護師国家試験受験資格 · 保健師国家試験受験資格(選択履修者) ※養護教諭二種免許状申請資格(保健師免許取得後) · 助産師国家試験受験資格(選択履修者)		





平成29年度入学試験概要

試験区分	試験科目	試験日程	
一般推薦· 社会人·同窓生子女 入学試験	小論文試験、基礎学力試験(英語)、 個人面接試験	平成 28 年 11 月 12 日(土)実施済	
一般入学試験	個人面接試験、学科試験(3科目) 必修:英語、国語 選択:数学、理科のいずれか 1 科目	前期:平成29年2月7日(火)後期:平成29年3月9日(木)	

※編入学試験は、3年次が開設される平成31年度入学試験より実施します。

※入学試験に関する詳細情報は、看護学部入学試験要項または本学ホームページにてご確認下さい。

(お問い合わせ先:入試センター事務室 内線 3252)

】おわりに

看護学部では、慢性的な看護職不足が叫ばれる岩手県のみならず東北地域全体の期待に応えるべく、優れ た看護師・保健師・助産師を養成するとともに、現役看護職者の資質向上・生涯教育にも積極的に貢献して いきたいと考えています。

来年春には、いよいよ待望の看護学部1期生が入学し、創立120周年の節目の年に医療系総合大学として の新たな一歩を踏み出します。

教職員並びに関係各位のご支援、ご協力をよろしくお願い申し上げます。

TOPICS

平成28年度高度看護研修センター創傷管理 関連特定行為教育課程開講式が行われました

10月3日(月)、創立60周年記念館10階会議室において、平成28年度高度看護研修センター創傷管理関連特定行為教育課程開講式が行われました。

式では、寺山センター長から「創傷管理に関する質の高い医行為の実施能力を身に付け、患者さんの早期治癒の促進に貢献してほしい」と式辞があり、続いて祖父江学長から「長期間の研修になるため、体調には十分気を付けて頑張ってほしい」と激励の挨拶がありました。

研修生を代表して毛利明子さんから「患者さんに必要な医療を安全かつ適切に提供できるよう、自己研鑽に励み、高度で専門的な知識と技術の取得を目指します」と誓いの言葉が述べられました。



医療専門学校歯科衛生学科のネーム プレート交付式が行われました

10月3日(月)、歯学部4階講堂において、平成28年度歯科衛生学科ネームプレート交付式が行われました。ネームプレート交付式は昨年までは戴帽式として行われていたもので、これから同学科の1年生が臨床実習を行うにあたり、医療人としての心構えや責任感を自覚し決意を新たにするものです。

式では、実習着に身を包んだ学生37名の呼名に続き、小豆嶋校長から一人ひとりに実習用のネームプレートが手渡されました。厳かな空気の中、学生を代表して西優花さんが謝辞を述べ、新たな決意を胸に歯科衛生士への第一歩を踏み出すことを誓いました。



岩手医科大学跡地活用検討に係る地域 住民との意見交換会が開催されました

10月12日(水)、創立60周年記念館8階研修室において、本学附属病院移転跡地活用に係る岩手県・盛岡市・盛岡商工会議所・本学の4者と地元町内会との意見交換会が開催されました。

意見交換会には、内丸第一町内会と本町第一町内会の住民約20人が参加し、住民からは、内丸地区の救急医療体制に関する質問や、跡地に望まれる施設としては、盛岡の歴史や文化を残しつつ将来の若い人たちにつなげていく施設が望ましいのではないかなどの活発な意見が出されました。



第49回動物慰霊祭が行われました

10月13日(木)、矢巾キャンパス大堀記念講堂において、第49回動物慰霊祭が執り行われ、教職員約100名のほか、医・歯・薬学部の学生約300名が参列しました。

式では、昨年度実験に供された動物に対する黙祷の 後、祖父江学長(写真)並びに学生代表の歯学部2年の 長門拓哉さんから慰霊の言葉が捧げられました。

続いて、参列者による献花が行われ、本学の教育・研究に貢献した実験動物の御霊に感謝するとともに霊が安らかならんことを祈りました。



岩手看護短期大学看護学科の戴灯式が行われました

10月14日(金)、岩手看護短期大学4号館マルチメディアセンターにおいて、平成28年度の看護学科戴灯式が行われ ました。戴灯式は、これから同学科の2年生が臨地実習を行うにあたり、どんな看護師になりたいかを問い直し、看護に 対する心構えや責任感を自覚し決意を新たにするものです。

式では、戴灯生70名の呼名に続き、一人ひとりがナースキャップを戴いた後、ナイチンゲール像から灯火を受け継ぎ整 列しました。厳かな雰囲気の中、戴灯生は灯火を掲げ、看護師の心構えである「ナイチンゲール誓詞 | を唱和し、献身へ の誓いを胸に刻みました。保護者、来賓の方々に見守られる中、戴灯生を代表して門間麻実さんが感謝の詞を述べ、新 たな決意を胸に看護の道を進んでいくことを誓いました。





アイバンク街頭PR活動が行われました

10月22日(土)、イオン盛岡南ショッピングセンターにおい て、アイバンク街頭PR活動が行われました。

当日は、PRポスターやパネル展示のスペースが設けられ、 本学教職員並びに関係団体の方々22名が1,300枚のパンフ レット等を配布し、アイバンクへの登録を呼びかけました。

アイバンクの機能を十分に発揮するためには、多くの角膜提 供登録が必要であり、本学においても多数の方々が角膜移植 を待ち望んでいます。登録をご希望の方は、病院事務部医務課 内のアイバンク事務局(内線3122)までお問い合わせください。



平成28年度医療安全対策講習会 が行われました

平成28年度医療安全対策講習会が、10月31日(月) から9回(録画映像による開催を含む)にわたって歯学 部4階講堂で行われ、職員約1.500名が参加しました。

講習会では、順天堂大学大学院医学研究科病院管理 学教授で東京都医師会医療安全対策担当理事の小林弘 幸 先生を講師にお迎えして「医療事故調査制度の光と 影」と題したご講演を頂きました。

参加者は熱心に聴講し、医療事故の調査制度につい て理解を深めました。





口腔顎顔面再建学講座・歯科麻酔学分野 四戸 豊 講師が 第44回日本歯科麻酔学会総会・学術総会で「中久喜学術賞」を受賞しました

この度、第44回日本歯科麻酔学会学術総会(平成28年10月28日より3日間にわたり北海道札幌市で開催)において、「中久喜学術賞」を受賞しました。「中久喜学術賞」は、創設者である中久喜 喬 先生の名を冠し、年間最優秀論文賞一遍に対して授与されるもので、平成27年に論文発表した「Changes in Brain Regional Activity during Intravenous Sedation: Magnetic Resonance Imaging Study — Evaluation by oxygen extraction fraction—」で受賞しました。受賞論文要旨は、静脈内鎮静法時にプロポフォールが脳におよぼす機能的な変化を検索するために、7TMRIを用いて、特に、意識レベルと関連する領域を特定するために視床非特殊核と全脳領域のconnectivityについてOEFを指標として検討したものです。歯科麻酔の臨床に関して優れた研究であり最も優れた論文と評価され、将来の発展性と今後の貢献が期待できるとされました。今後はこの研究を更に進め、歯科医学・歯科医療の発展に向けて尽力していきたいと考えています。受賞にあたりご指導、ご協力いただいた皆様方に深謝申し上げます。



総会受賞会場 札幌コンベンションセンターにて (左から) 佐藤教授、四戸講師、城名誉教授

薬物代謝動態学講座 寺島 潤 助教らの論文がDMPK賞を受賞しました

2015年に寺島 潤 助教らがDrug Metabolism and Pharmacokineticsに発表した論文「CYP1A1 and CYP1A2 expression levels are differentially regulated in three-dimensional spheroids of liver cancer cells compared to two-dimensional monolayer cultures」が2016年DMPK賞(最優秀論文賞)を受賞しました。薬物代謝酵素の発現調節経路は、主に2次元状態の培養細胞で解析されたものが多かったのですが、この論文で体内のがん細胞塊に近い3次元構造の細胞塊では、今までに知られていたものと異なる経路で薬物代謝酵素の発現が調節されていることが証明されました。

この論文を足がかりとして、体内の薬物代謝をより正確に再現できるモデルの構築を目指し、職員、学生一同研究を進めております。受賞にあたり、御指導、御協力いただいた方々に御礼申し上げます。

(文責:薬物代謝動態学講座 寺島潤)



(左から) 小澤教授、寺島助教、大森日本薬物動態学会会長

大学院薬学研究科3年生の猪俣結衣さんが 平成28年度西宮機能系基礎医学研究助成基金を受賞しました

西宮機能系基礎医学研究助成基金は、東北・北海道地区で薬理学を中心とした機能系基礎医学の研究に従事している将来性のある若手研究者3名と大学院生1名に与えられる賞であり、21世紀における医学および関連する諸科学並びに文化の発展・向上に資する事を目的として発足されたものです。

猪俣さんは、彼女のテーマである「Bcl-2関連athanogene 3の神経保護作用」というテーマで本基金に申請し、見事受賞しました。平成28年9月30日に行われた第67回日本薬理学会北部会の中では、受賞者によるシンポジュームが行われました。その際、座長の先生より、今年度この基金には3倍-4倍もの多数の応募が有り、狭き門であったこと、また内容的にも非常にレベルが高く、選考は困難を極めた旨が説明されました。猪俣さんは、甲状腺ホルモンが低下した状態での胎児の神経形成にBcl-2関連athanogene 3(BAG3)が密接に関わっていることを受精鶏胚-ヒヨコを用いた実験系や培養神経細胞などの様々な実験系を用いて示しており、その点が評価されました。今後、この研究を更に進め、様々な神経疾患でのBAG3の生理的な役割を解明し、甲状腺ホルモンが関わる多数の疾患の治療法開発につなげていければ、と考えているとのことです。

(文責:薬剤治療学講座 三部篤)



日本環境感染学会から熊本地震における被災地支援活動に対し 感謝状が贈呈されました

平成28年4月14日に発生した熊本地震に際し、医療安全管理部感染症対策室は、岩手県保健福祉部所轄「いわて感染制御支援チーム(ICAT)」を構成する「感染制御専門班」として緊急支援活動に参加しました。この度、その功績が評価され、一般社団法人日本環境感染学会から感謝状が贈呈されました。

今回の支援活動では、地震後の避難所生活に伴う衛生環境の悪化が見込まれることから、日本環境感染学会の先発隊として東日本大震災の経験を有する医療安全管理部感染症対策室室長・睡眠医療学科の櫻井滋教授と同室副室長・臨床検査医学講座の小野寺直人助教が避難所を視察調査し、学会および現地の感染制御担当者に対し感染制御活動に関する情報を提供しました。また、視察と同時に感染制御用衛生資材を避難所に届け、衛生指導を実施するなど、4月22日から25日までの4日間(陸路による移動時間を含む)に渡り支援活動を行いました。



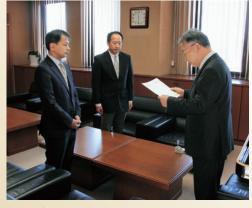
平成28年度「科研費」審査委員表彰を本学教員2名が受賞しました

独立行政法人日本学術振興会では、科学研究費助成事業(科研費)の 審査の質を高めるため、審査結果の検証を行い、その結果を翌年度の審 査委員の選考に適切に反映しています。

平成20年度からは検証結果に基づき、有意義な審査意見を付した審査 委員を表彰しており、平成28年度は約5,700名の第1段審査(書面審査) 委員の中から268名を選考し、本学から歯学部補綴・インプラント学 講座 補綴・インプラント学分野の近藤 尚知 教授と医学部の大澤 正樹 非常勤講師の2名が選出されました。

表彰状の贈呈式は、10月19日(水)に学長室で行われ、祖父江学長から表彰状が手渡された後、お祝いと労いの言葉が贈られました。

なお、本学の過去の受賞者は、平成24年度に解剖学講座発生生物・再 生医学分野の原田 英光 教授が受賞しております。



(左から) 近藤教授、大澤非常勤講師、祖父江学長



エフエム岩手ラジオ番組「岩手医科大学~いのちから~」

2016年12月の放送予定(毎週日曜9:30~9:55)

放送日	テーマ	出演	
平成28年12月 4日	白血病について(前編)	内科学講座血液腫瘍内科	古和田 周吾 講師
平成28年12月11日	白血病について(後編)	内科学講座血液腫瘍内科	古和田 周吾 講師
平成28年12月18日	体の中に薬をつくる(前編)	神経科学講座	駒野 宏人 教授
平成28年12月25日	体の中に薬をつくる(後編)	神経科学講座	駒野 宏人 教授

- 放送内容は都合により変更となる場合があります。
- 過去放送分は、エフエム岩手ホームページ(http://blog.fmii.co.jp/inochikara/)でお聴きいただけます。
- 放送に関するお問い合わせは、企画調整課(内線:7023)までご連絡ください。

新任教授の紹介

平成28年10月1日就任

統合基礎講座 微生物学講座分子微生物学分野

佐々木 (ささき みのる)

昭和 31 年 10 月 9 日生 岩手県盛岡市出身



研究テーマ

・口腔細菌の病原性と病原因子、口腔細菌と全身疾患 主な著書論文

- ・ヒトロ腔扁平上皮癌における Streptococcus anginosus 感 染と activation-induced cytidine deaminase (AID) 異所 性発現(岩医歯誌, 2015; 40: 26-37)
- ・Streptococcus anginosus のフィブロネクチン結合活性は粘 膜上皮細胞への付着を促進する(In Interface Oral Health Science 2011, Springer Japan, Tokyo, 2012; 204-205)
- ・低用量 (IC90) 銅イオン刺激ヒトマクロファージのプロテ オーム解析 (Dent. Mater. J., 2011; 30:293-299)

趣味

スポーツ観戦、庭の手入れ

教職員への自己PR

本学歯学部口腔微生物学講座の助手に昭和61年に任用され、以来一貫 して同講座において研鑽を積んで参りました。当分野では主に齲蝕や歯周 病に関連する口腔細菌の病原性と病原因子についての研究を行っております。 かつては内丸で、現在矢巾キャンパスで分野内のスタッフ・大学院生と共に 教育・研究に励んでおります。矢巾では医歯薬学部に加え来年度より看護学 部も開設されることで、尚一層学部あるいは分野間で連携しやすい環境が 整います。関連分野と研究・教育の両面で広く連携し、本学の発展に貢献で きればと存じます。教職員の皆様には、何卒よろしくお願い申し上げます。

東北薬科大学薬学部卒業 昭和 56 年

昭和61年 東北薬科大学大学院薬学研究科博士課程修了

昭和61年 本学歯学部口腔微生物学講座 助手 平成2年 本学歯学部口腔微生物学講座 講師 平成8年 本学歯学部口腔微生物学講座 助教授

平成 23 年 本学微生物学講座分子微生物学分野 准教授

平成 28 年 10 月 現職

平成28年10月1日就任

医歯薬総合研究所 看護·政策研究部門

陽子 (のむら ようこ)

昭和 26 年 1 月 25 日生 神奈川県横浜市出身



研究テーマ

·看護政策、地域看護学、看護管理学、公共政策

主な著書論文

- ・保健師助産師看護師法 60 年史(保助看法改正の経緯、厚 生労働省の看護行政の足跡を執筆。2009年12月)
- ・看護管理学習テキスト(看護職員確保対策、診療報酬、 看護の行政組織を執筆。2016年4月)
- ・保健医療福祉行政論(編集と保健医療福祉の行政を執筆。 2013年9月)
- ・看護の政策過程 准看護師問題を中心に (法学志林第 111 巻第 4 号、2014 年 3 月)
- ・看護制度と政策。単著、2015年3月

趣味

リコーダー、ジョギング、旅行

教職員への自己PR

来年4月から開設する看護学部で地域看護学を担当する教員とし て10月1日付で採用されました。新しい看護学部では、将来に向かっ て成長できる看護職を育てていきたいと考えております。初めて岩 手県に住み地域の実情はまだよくわかりませんが、気候風土そして 文化の異なる広大な地域を理解しつつ、県内での地域包括ケアシス テムの構築を目指した研究、そして教育に努力してまいりたいと思 います。皆様方のご指導ご鞭撻をよろしくお願いいたします。

経歴

昭和 48 年 聖路加看護大学卒業、国立病院医療センター 助産師、看護師

昭和51年 新宿区保健所 保健師

昭和 57 年 (財)東京都神経科学総合研究所 社会学研究室 昭和 59 年 厚生省、健康政策局計画課、看護課保健師係長 平成5年 国立公衆衛生院 (米国エモリー大学留学)

平成6年 厚生省保険局医療課課長補佐、

地域保健·健康增進栄養課保健指導官

平成 18 年 厚生労働省医政局看護課課長

平成 23 年 厚生労働省定年退職

法政大学大学院政治学研究科博士後期課程修了 平成 24 年

平成 26 年 京都橘大学看護学部教授

平成 28 年 10 月 現職

平成28年10月1日就任

医歯薬総合研究所 看護·政策研究部門

亮 (たかはし りょう)

昭和 45 年 10 月 25 日生 神奈川県横浜市出身



研究テーマ

· 小児看護学、国際看護学

主な著書論文

- ・新看護学4専門基礎4患者の心理第3版(共著/担当: 第2章 対象別に見た患者の心理) (医学書院、2014年)
- ・成長障害のマネジメント 第3版(共著/担当:Ⅳ成長 障害児の社会的心理的問題とケア)(医薬ジャーナル社、 2013年)
- ·SGA 性低身長児における成長ホルモン治療効果の心理 社会的特徴に関する研究(日本成長学会雑誌17巻2号、 P77-83、2011年)

趣味

読書、テニス

教職員への自己PR

岩手医科大学の教職員の一員になることを大変光栄に思っており ます。これまで主に小児看護学の領域で教育、研究を行って参りまし た。また、JICA や国際 NGO を通してアフリカや東南アジアでの保 健活動も行ってきました。今後も国内外の困難な状況に苦しむ子ども たちへの看護ならびに研究活動を行い、これまでの経験を教育に活か すことができればと思っております。看護学部開設後は、医学部や歯 学部、薬学部、教養教育センターの先生方ならびに臨床や事務職の皆 様とも連携を図りながら教育研究活動に取り組んで参る所存ですの で、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

経歴

平成5年 拓殖大学政経学部政治学科 (国際関係コース)

卒業、スルガ銀行㈱入行

平成 12 年 東海大学医療技術短期大学第一看護学科卒業、国立小児

病院(現、国立成育医療研究センター)看護師 日本大学大学院総合社会情報研究科修士課程修了

平成 16 年 平成 17 年 川崎市立看護短期大学看護学科 講師

平成 20 年 日本赤十字北海道看護大学看護学部 講師

平成 22 年 桜美林大学大学院国際学研究科博士後期課程満期退学

平成 23 年 国際親善総合病院 看護課長

平成 24 年 佛教大学保健医療技術学部看護学科 准教授

平成 28 年 10 月 現職

シリーズ **No. 105 に いっ でし いっ でし**

当眼科学講座は、黒坂大次郎教授を筆頭に計32 名の医局員で構成しております。そのうち関連病院へ 常勤に出ている医局員が数名おります。月曜には医局 会中に症例検討会があり、手術予定または手術後の 症例について活発に意見交換を行います。患者様は 岩手県内だけでなく、近隣の県からも紹介いただくこ とが多いため、1年間の手術件数はおよそ2,800件と 院内の診療科で最も多く、1日の平均はおよそ10件で す。月曜日から診療のある土曜日まで手術場はフル 稼働しております。予定手術の手術待機期間はおよそ 2~6か月となっております。予定手術のほかに、外 傷など緊急手術も多く扱っております。眼科の患者さ んは、入院期間が短いことが特徴で、短期間に多く の患者さんが出入りするため、担当医、外来・病棟ス タッフとも、細心の注意を払って治療にあたっております。今後もよりよい治療を提供できるよう、医局員 一同、日々努力を続けて参りたいと思っております。

(助教 新田 順福)



超高磁場MRI診断・病態研究部門は、学部横断的共同研究拠点として整備された現医歯薬総合研究所の一部門として平成21年に創設されました。スタッフは、佐々木真理教授をはじめとする教員、研究員、放射線技師、看護師、研究支援者(SE)、秘書、研究補手(CRA)の総勢15名で、超高磁場7テスラMRIを用いた研究開発や脳領域を中心とした臨床研究、次世代イメージング法・解析法の確立などに取り組んでいます。また、学内外の多くの先生方と、脳血管障害、脳動脈硬化、神経変性疾患、精神疾患などの早期画像診断に関する共同研究を、研究テーマごとにチームを組織して進めています。さらに、独自の脳画像情報システムを構築し、治験・多施設臨床試験・全国レジストリなどの画像データセンターとしての役

割も担っています。今後も、超高磁場MRIを主軸と する画像診断技術のさらなる発展に向けて、スタッフ 一同努力を続けていきたいと思います。

(助教 伊藤 賢司)



言語聴覚室は、耳鼻咽喉科・頭頸部外科医師の指示・指導の下言語聴覚士6名で検査やリハビリに携わっております。

行っている検査には、耳(聴力検査など)・鼻(鼻腔通気度)・のど(音声機能検査など)及び平衡機能検査や言語機能評価があります。リハビリは、脳血管疾患患者さんへの言語リハビリ、頭頸部がん患者さんや他科から依頼される嚥下リハビリ、人工内耳にかかわるもの、小児の補聴器装用者へのかかわりなどとなります。

対象となる患者さんは疾患も様々で、生まれたば かりの赤ちゃんから高齢の方までと年齢層の幅も広く、 また、きこえない・話せないなどで意思疎通を図るこ とが容易でない方も多くいらっしゃいます。そのため、 スタッフ間で情報を共有しあい、より正確な検査・リハビリとなるように取り組んでいます。

(言語聴覚士 八重樫 恵子)



理事会報告 (9月定例-9月26日開催)

1. 教員の人事について

統合基礎講座微生物学講座分子微生物学分野 教授 佐々木 実 (前 同分野 准教授)

(発令年月日 平成28年10月1日付)

薬学部薬学教育学科 教授

奈良場博昭 (現 細胞病態生物学講座 准教授)

薬学部情報薬科学講座 准教授

西谷 直之 (現 同講座 講師)

薬学部生体防御学講座 准教授

白石 博久 (現 同講座 講師)

薬学部地域医療薬学講座 准教授

松浦 誠 (現 創剤学講座 講師)

(発令年月日 平成29年1月1日付)

- 2. 平成29年度事業計画書方針について
- 3. 平成29年度予算編成方針について

4. 経理規程の一部改正について

10月1日付で附属病院とPET・リニアック先端医療 センターが統合されることに伴い、会計単位に係る部門 変更をするため、経理規程の一部改正について承認

(施行年月日 平成28年10月1日)

5. 岩手医科大学組織規程の一部改正について

救急センターの運営体制を見直すことに伴い、救急センター の運営を統括する副院長職を設置できることとして組織規程 及び別表3-1附属病院組織機構図の一部改正について承認

(施行年月日 平成28年10月1日)

6. 看護学部開設に伴う諸規程の整備について

平成29年4月の看護学部開設に向けて、新たな規程 の制定及び現行規程の一部改正について承認

(施行月日 平成28年10月1日及び平成29年4月1日)

7. 附属病院新築工事に係る着手指示書の交付について



矢幅駅前に創立120周年記念バナーフラッグを設置しました

平成29年4月20日に迎える本学創立120周年まで、残すところあと5ヶ月足らずとなりました。そこで、記念事業 のより一層の周知と気運醸成を目的として、記念バナーフラッグを矢幅駅東口のロータリー付近に7箇所設置しました。 本学だけではなく、地域全体で120周年記念事業を盛り上げていくため、今後も広報展開していく予定です。





No. 12

編集委員コーナー 「もっとジョギングに行こう 中津川編」



編集委員 成田 欣弥

今回は盛岡市街を流れる清流、中津川の河川敷コースを ご紹介します。上の橋から北上川合流地点、開運橋を経て 旭橋まで、片道約2.5キロ、往復約5キロのコースです。 すべて河川敷の遊歩道(自転車不可)で、市街中心部であ りながら穏やかな雰囲気に心癒されるコースです。

スタート地点は上の橋から川辺に降りた地点にしまし た。中津川は両岸に遊歩道が整備されていますが、距離の 長い右岸の遊歩道を下流に向かって走ります。内丸キャ ンパスからアクセスしやすい上の橋をスタートにしました が、遊歩道はもう少し上流から続いていますので、お好き なところからスタートできます。

盛岡市街の中心部を横切る中津川には多くの橋が架かっ ていて、コースはその下を一本一本くぐります。河川敷と 川面との高低差がほとんどないので増水時にはコースが水 没することがありますが。その川面との近さがこのコース

の気持ちよさでもあり、コース中には川遊びができるス ポットもあります。

河川敷の野球グラウンドが中津川と北上川の合流地点 で、コースはここから向きを変えて北上川沿いを上流に向 かって走ります。盛岡駅付近にも関わらず、のどかなコー スが続きます。

駅周辺の賑わいを頭上に見ながら開運橋をくぐると、堤 防にはきれいに手入れされた花壇がしつらえてあり、季節 折々の花が楽しめます。花壇は次の旭橋まで続いています。 旭橋のたもとが遊歩道の終点になっていて、ここが今回の 折り返し地点です。気持ちのいい道ですから、帰りはゆっ くりと散歩を楽しむのもいいかもしれません。

春にはカルガモ親子が行列し、秋にはサケが遡り、冬に は白鳥が訪れる、とてものどかな中津川。市街地にもこん な川が残っている盛岡の豊かさを感じるコースです。



《岩手医科大学報編集委員》

小川 米澤 彰 裕司 影山 雄太 山尾 寿子 松政 正俊 菊池 初子 齋野 朝幸 佐々木さき子 欣弥 成田 佐々木忠司 佐藤 仁 熊谷 佑子 藤本 康之 正充 畠山 白石 博久 菅原 侑子 美穂 藤澤 武藤千恵子 髙橋

編集後記

青く澄みきった寒空に、白鳥が群れをなし 飛来する姿を目にする季節がやってきました。 私のウオーキングコースである高松の池にも 多くの白鳥が飛来し、秋の短さを感じると共 に、冬の到来に向けて皆さんも準備を進めて いるのではないでしょうか。

今月の特集は、平成29年4月に開設される 看護学部の紹介が掲載されています。 多職種 が連携するチーム医療が求められる現代にお いて、日本で唯一の医・歯・薬・看護の4学 部が同一キャンパスで共に学ぶ大学となりま す。待望の1期生が入学してきますが、温か い目で見守り支援していきたいですね。

(編集委員 山尾寿子)

岩手医科大学報 第482号

発行年月日 平成28年11月30日 発 行 学校法人岩手医科大学 編集委員長 小川 彰 編 集 岩手医科大学報編集委員会 事務局 企画部 企画調整課 盛岡市内丸19-1 TEL. 019-651-5111 (内線7023) FAX 019-624-1231

E-mail: kikaku@j.iwate-med.ac.jp

印 刷 河北印刷株式会社 盛岡市本町通2-8-7 TEL. 019-623-4256 E-mail: office@kahoku-ipm.jp



す^こりか スポット医学講児

章 臨床検査医学講座 教授 証言方部

No. 72



悪玉コレステロールが高いと必ず薬を飲まなければならないの?

健康診断でコレステロールが高いと判定され、コレス テロールを下げる薬を飲んでいる方が多いと思います。コ レステロールには善玉と悪玉があり、悪玉が動脈硬化(心 筋梗塞や脳梗塞などを引き起こす病態)の原因になる ことは多くの方がご存知かと思いますが、例えば悪玉が 160 mg/dlの場合(基準範囲は140未満)、コレステロー ルを下げる薬を必ず飲まなければならないのでしょうか。

答えは「No」です。悪玉が同じ160 mg/dlでも、60歳 の男性で、血圧が高く、タバコを吸うAさんと、40歳の 女性で血圧も正常でタバコを吸わないBさんとでは判断が 大きく異なるのです。

その動脈硬化は、男性(>女性)、高齢者、喫煙者(> 非喫煙者)、糖尿病や高血圧の合併のある方、心筋梗 塞の家族歴のある方、善玉が低い方などで、進行が早く、 動脈硬化性疾患で死亡する割合が高くなるといわれてい ます。

脂質異常症の診断基準(図:日本動脈硬化学会、動脈 硬化性疾患診療ガイドライン2012)によると、冠動脈硬 化性疾患(心筋梗塞)で死亡する割合が、Aさんで5~ 10%、Bさんでは0.5%未満と大きな違いが出てしまうの です。従って、Aさんは悪玉を低下させないと生命に危険 が及ぶ可能性が高いのに対し、Bさんは悪玉が高くても さほど心配する必要がないと判断できるのです。

悪玉を下げる薬を飲んでいる方でも、「薬さえ飲んでい れば大丈夫」と考えず、食事に気を付ける、適度に運動 をする、禁煙するなど、生活習慣を改善することが重要 になっています。

